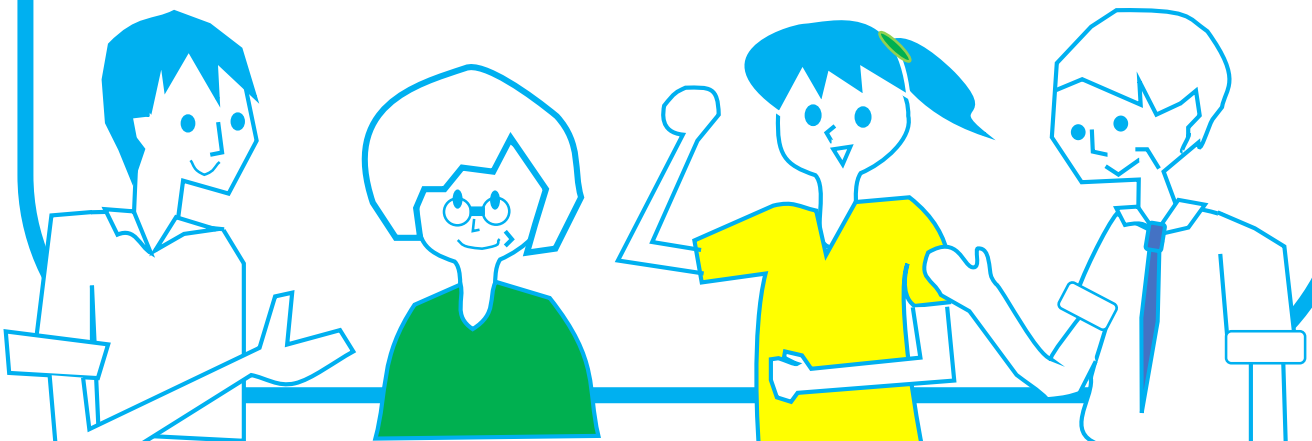
＼岡山市発／
協働で社会をよくする仕組み、紹介マガジン

協働通信

Vol.3　2019.08

- 協働で得られるもの
- 協働の担い手(第一弾)
- 共感のひろげ方



協働って大変
そうだけど…

協働により得られるものって何？

岡山市で実施された協働事業から、
「協働」により得られるものを見ていきましょう。

協働事業の実践事例

地域猫活動の普及啓発事業及び活動推進事業

NPO法人岡山ニャンとかし隊 × 岡山市保健所衛生課

人と猫が共生できる社会の実現を目指し、飼い主のいない猫対策について検討しています。
平成29年度に市民協働推進ニーズ調査事業を、平成30年度からは市民協働推進モデル事業を実施しています。
担当課である岡山市保健所衛生課の担当者に、協働事業についてインタビューしました！

平成29年度 ニーズ調査事業
地域猫活動への理解促進の必要性、参加の機会提供の必要性が明らかになった。

平成30年度 モデル事業１年目
団体と行政の協働で飼い主のいない猫対策講座・ボランティア養成講座等を実施。

平成31年度 モデル事業２年目
希望地域で飼い主のいない猫対策事業実施及び検討中地域へ活動推進を実施。

岡山市担当者の
梶原さんにお話を
伺いました！

■ 協働相手に求めていた役割や期待していたことは何ですか？

実際に地域猫活動をしている活動者としての率直な意見や活動実施するうえでの問題点を抽出していただくこと。また、行政という立場では発想できないアイデアを提案してもらうことを期待していました。

■ 協働を通じてどんな効果が生まれましたか？

協働団体が飼い主のいない猫の多い地域での経験事例などを踏まえ、市民に説明会を実施することで、地域ごとの課題解決へのヒントとなり、実際に活動する団体が増え、地域猫活動が広がっていきました。

■ よりよい協働の実践に向けた提言や助言をお願いします

まだまだ事業は継続中ですが、ESD・市民協働推進センターの伴走支援を受けながら、協働団体と率直な意見交換を行い、行政・民間のそれぞれの利点を生かし協働していくことが重要ではないかと思います。

地域猫活動から知る協働事業のポイント

明確な役割分担

NPOと行政では、得意なこと、アプローチできるところ、持っている資源が異なります。地域猫活動では互いの得意や長所を話し合い、お互いの**役割を明確に**していきました。

また、実際に現場で活動するNPOだからこそ気づくこと、生まれるアイデアがあります。その実感をNPOの持つ資源と捉え、前向きに議論をすることで、お互いのことをより深く理解することができます。

長所を活かした説明会の効果

市民向けの説明会などを開催する際、行政あるいは団体だけで行うことも多いでしょう。しかし、行政だけでは活動経験を活かした生の声は届けられず、NPOだけでは市民から高い信頼を得られない場合もあります。

地域猫活動では、NPOの経験値や現場の感覚、行政の信頼性や情報発信力という長所を活かしあった官民合同の説明会を実施し、地域猫活動の参加地域が増えるといった効果が得られました。

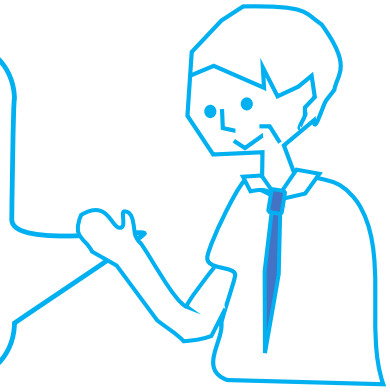
目的意識の共有

協働事業をしていると、時にNPOと行政で意見が異なることもあるかもしれません。地域猫活動の場合もこれまでにそうしたことがありましたが、**事業の目的は何かを振り返り**、目的のために今何が必要か**率直に意見を交わす**ことが、互いの信頼関係をいっそう確かにすることにつながります。

地域猫活動ではこうした歩みを経て「人と猫が共生できる社会の実現」という目的に向かって効果的な事業を考えられるようになりました。

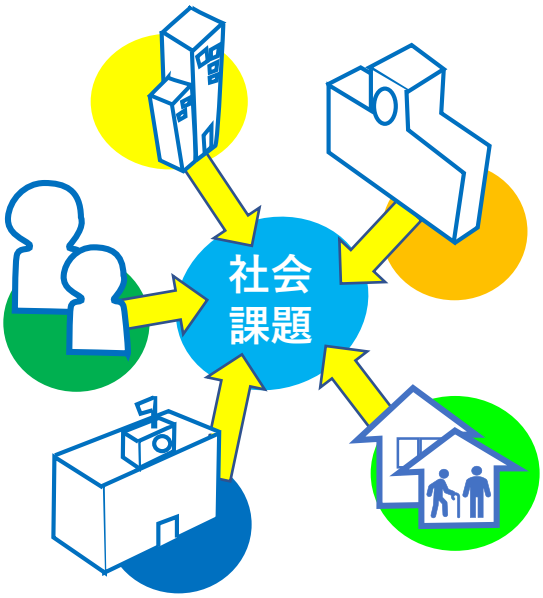
NPOと行政が互いの長所を活かせるように役割分担をしたことで、地域猫活動の普及啓発および活動推進がはかどりました。

長所を理解し合ったことで「人と猫が共生できる社会の実現」という目的に向かって、より効果的なアプローチを考えることができる関係になりました。



その課題を
解決する

協働の担い手は？



地域や社会の課題を解決するために、NPOなどの市民活動団体、行政、学校、住民自治組織、企業など、多くの人や組織がさまざまな取組を行っています。

しかし、課題の構造は複雑で、ひとつの組織によるアプローチだけでは解決できないことも多々あります。そこで効果的なのが「協働」というアプローチです。

協働とは、課題解決に取り組む複数の組織がお互いに自組織の得意分野を活かしながら、組織の枠を超え、力を合わせて社会課題の解決を目指すものです。

協働の担い手には、市民活動団体、行政、学校、企業などさまざまな組織があります。今号では、行政とNPOの協働における強みをみていきます。

行政の強み ～制度をつくり、社会の基盤をつくる～

行政は法に基づいて政策やサービスを実行しています。市民との協働においては以下のような役割を担うことが一般的です。

①不特定多数へ向けた情報発信
②情報公開（アカウンタビリティ）
③信頼性の担保
④リスクや法令への配慮
⑤施策化や施策の見直し

岡山市の協働を進めるためのしくみ

●多種多様な団体の協働による、地域社会の課題解決に関する取組を推進するため、住民自治組織、NPO、事業者、学校等で構成された「**協働推進委員会**」を設置しています。

●**市民協働推進本部**を設置するとともに、関係各課に協働推進員を配置しています。各課は協働の視点で施策を見直すとともに、協働提案の窓口となり、協働事業の実現に努めています。

●協働の取組を推進するために、市民の意見交換の場として、毎年、**協働フォーラム**を開催しています。

NPOの強み

～課題の認知を拡げ、
課題解決のための出番を増やす～

NPOは社会課題の解決をミッションとする民間の非営利組織です。NPOの強み・特徴として、以下のようなものが考えられます。

①必要な時に動くことのできる即応性
②必要なサービスを提供できる柔軟性
③マイノリティを尊重する多様性・当事者性
④利益や権益に縛られない非営利性
⑤社会への発信力・提言力

NPOを知る～協働相手としてのNPO～

効果的な協働事業の実施のためにNPOを知るための４つのポイントを紹介します。

●活動内容
・そのNPOの目的(ミッション)は何か
・これまでの活動実績と協働したい事業との関連

●事業実施力
・事業実施計画は妥当なもので、対象のニーズを十分に把握したものであるか

●財政状況
・適正な会計処理が行われているか
・収支状況、経理状況は健全な状態か

●組織・運営体制
・役員体制や事務局の体制、意思決定の方法は事業実施に十分な状況か

～さまざまな協働のかたち～

異なる組織同士の協働には、さまざまなかたちがあります。事業の目的や内容などに応じて、最も適切な協働のあり方を考えましょう。

共催・事業協力

異なる組織同士で共に事業を実施する。目的を共有、対等な立場で十分な検討のうえ、それぞれの役割分担と責任の所在を明らかにしておくことが重要。

後援

名義後援することにより信頼性が向上する。広報や場所・物品提供などの協力が含まれる場合もある。

委託

専門知識や実践経験の豊富な組織に委託して事業を実施する。
受託者が十分に力を発揮するために、事業実施の手法や手順について受託者の創意工夫が生かせるような仕組みになっていることが、いっそう協働による成果の創出につながる。

参画・提言

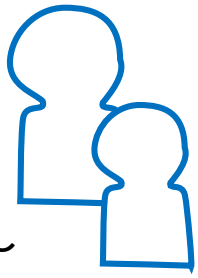
委員会や審議会等の仕組みをつくり、さまざまな立場の人の意見や提案を施策に生かしていく。

補助

事業費の一部を補助金として交付する。補助の趣旨や範囲などを確認する必要がある。

仲間を
ふやす

共感のひろげ方
～コミュニティ・オーガナイジングとは～



　コミュニティ・オーガナイジングとは、市民の力で社会を変えていくための方法・考え方です。
　社会を変えるためには、成果や価値を効果的・効率的に具現化する必要があります。そのためには周囲の人々も巻き込んで、自分自身を奮い立たせ、周囲に共感してもらえる目的や目標を定め、すでに手元にある資源だけでなく、周囲や外部からも資源を集めることが大切です。

　ESD・市民協働推進センターでは、NPO法人コミュニティ・オーガナイジング・ジャパンの協力により、この手法を学ぶワークショップをこれまでに５回実施、人をまき込み、事業を大きくするためのリーダー育成研修を行いました。

●仲間を増やすための４つの要素●

人が行動を起こす時、
そこには必ず共感する背景がある。

なぜ自分が行動を起こしたか、
自身の背景を語り聞き手の**共感を呼ぶ**、
コミュニティとしての**一体感を創り出す**。
いま行動を起こすことの必要性を語り、
共に行動する**仲間を増やす**。

これらの視点の組み合わせが、
人や社会を動かす力になる。

関係構築

ボランティア活動を継続的に行うには、**メンバー同士の強い関係の構築**が鍵となります。ボランティア活動では、共通の目的を持ち、成長し学び合える関係づくりが必要です。
関係構築の方法はたくさんありますが、特に一対一で話すことによる関係構築を重視しています。

チーム構築

活動推進のためには、数人～10人程度の核となるチーム構築が重要です。
多様なスキル・性格・人脈などをもつ人が、共通の目的に向かって相互補完しながらリーダーシップをチームとして発揮できる組織を構築します。

戦略

目的を達成するためには、自らの状況や持っている資源(時間やお金・スキル・人脈など)を分析することが大切です。
それらをどう使って状況を変えていけるか、**創造的な戦略**を立てることが必要です。

アクション

課題解決のために資源を結集し展開することがアクションです。
多くの人が積極的に参加するためには、つながりや背景の説明、具体的に参加できる場の設定や役割の提供などによるアプローチが不可欠です。

実践者インタビュー

病弱児の支援を行う「ポケットサポート」代表理事の三好祐也さんにコミュニティ・オーガナイジングの手法を活かした、人をまき込む実践事例についてお聞きしました。

三好さんはコミュニティ・オーガナイジング・ワークショップ（以下COW）を第一期生で受講。その後もコーチとして、リーダー育成に関わってくださいました。受講して気づいたことを教えてください。

COWを知ったのは自組織のNPO法人化を考え始めた頃。リーダーシップを学ぶ、ということに惹かれて受講しました。一期生ということもあり、参加者はNPOで精力的に活躍する人ばかり。その熱量に引っ張られ、夢中でやりきりました。

COWでは「ひとを動かすための活動」としてキャンペーンを考えます。その際「この人達と取り組む課題は違うけれど、一緒にできることもあるのだ」と気が付きました。

ポケットサポートは、「重い病気を抱える子どもたち」という、いわゆる隙間に埋もれがちなニーズに対応する団体です。かつては関係者をいかにエンパワメントし、どう解決に向かっていくかを中心に考えていましたが、COWの受講を機に、色んな人に関わってもらう在り方を考えるようになりました。

多くの人に関わってもらう上で大切にしているのはどんなことですか？

人をまき込むには「自分にも関係していることだ」と考えてもらうことが大切です。

そのためには、一般の人の共感も呼ぶ伝え方が大切だと思っています。たとえば、「小児がんで治療を頑張っている〇〇ちゃん」といった子どもの例だけでは、もともと関心を寄せてくれている人や関係性の深い人にしか届きません。世の中の一般層にとっては「自分が関われるものではない」となりがちです。

けれど、事業や制度など、相手が関われるものを提案することで、一緒に取り組む機会が生まれる可能性があります。相手の困っていることは何か、一緒に取り組めるポイントはどこかを考えることはとても重要です。

「私のこと」を話すのも大切ですが、それを「私たちのこと」として伝えることで仲間を増やしていけると思います。

相手の活躍できる役割を一緒に考えるのですね。

「自分たちだけでやるのではなく、相手をまき込むにはどうしたらいいか」を考えた時、大切なのは「資源の交換」だと思っています。自分たちには何ができて、相手には何ができるのか。お互いのニーズを把握しながらお互い活躍でき、ともに良くなる方法を考える。

たとえば、ポケットサポートには年間30～40人の学生ボランティアが参加します。多くは教員志望の学生です。学校のカリキュラムでは十分に学ぶ時間をとりづらい病弱児について学び、実践できる機会を得ることができます。ポケットサポートとしても、病弱児支援について学んだ人が将来教員になり子どもたちに関わるというのは、将来的な子どもたちの環境づくりにもつながると考えています。

実際にボランティア活動をした学生がその後教師になり、特別支援学校や病院内の学級の担当になったこともあります。

岡山市でも協働事業をされていますが、どのような工夫をされていましたか。

岡山市健康づくり課と慢性疾患を抱える児童へのサポートを行う事業を市民協働推進モデル事業から行い、一般施策化しています。協働事業は現場をみてもらうことから始まり、定期的な打合せにより、信頼関係を築いていきました。

工夫は、当たり前のことですが「細やかな連絡と、細やかな相談」だと思います。協働は同じ目標にたち、フラットな立場で、チームとして課題解決にあたるもの。

同じチームであるのにどちらかが勝手に物事を進めたり、お互いに情報を十分に把握できていないままではバラバラの動きになってしまい、協働の十分な成果は得られないように思います。

私が市民協働推進モデル事業に取り組んだ際は、時に担当課に相談相手になってもらい、時に自分達の資源を提供し、お互いの必要性を高めていくコミュニケーションを取ることができました。

協働を進めたい方へのアドバイス

「あなたは何屋さんですか？」とお聞きします。協働は何かをしてもらうためのものではなく、達成したい目標のために一緒に取り組むことです。自分は何ができるのか、ということを伝えられるようにしておくことで、お互いに役割をもって取り組むことができると思います。

三好祐也

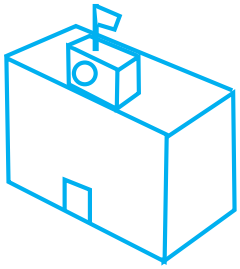
認定特定非営利活動法人ポケットサポート　代表理事（平成27年11月法人化（平成30年4月13日に認定取得）

長期にわたる入院や治療、療養が必要な子どもたちへの学習や復学を支援。不足しがちな社会体験を補うイベント活動、孤立感解消のためのコミュニティ作り、それらに関する事業を行う。岡山市では、平成28・29年の市民協働推進モデル事業を経て、長期療養が必要な子どもに対して、交流・学習支援・ピアサポート相談の機会を設け、社会性・健全育成・自立促進を図ることを目的とした事業（「岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援事業」）が一般施策化。現在、この事業の受託運営を行っている。

ESD・市民協働推進センター

ESD・市民協働推進センターは「協働を推進するためのコーディネート機関」です。人材育成、情報共有および交流機会の創出、社会課題解決のための取り組みの推進などを担います。

相談提案　情報収集　事業参加



平成30年度岡山市市民協働推進モデル事業＆ニーズ調査事業報告会 開催

令和元年８月７日、平成30年度岡山市市民協働推進モデル事業＆ニーズ調査事業報告会を開催しました。行政職員やNPO関係者、関心のある個人の方など、80名以上の方にご参加いただきました。

昨年度協働事業を実施した６つの取組について、NPO団体と担当課のみなさんから報告をいただきました。

今回は、６事業のうち３事業がエリアマネジメント・パークマネジメントに関係する取組ということもあり、法政大学の保井先生をお招きしてエリアマネジメント・パークマネジメントのことを教えていただきました。

３つに分かれた分科会では、さらに深くエリアマネジメントを考えたり、協働のポイントについて協働事業の経験者である団体と担当課の方に感じたことを教えていただいたり、複数のNPO団体による協働事業について検討したり、平成30年度に実施した各取組の特徴をふまえて多くの人に「協働」を考えていただきました。

★第４回おかやま協働のまちづくり賞 応募受付中

地域の社会課題解決に向けた協働の取組を表彰し、応援します。

テーマ：すべての人に健康と優しさを
締切日：令和元年10月11日(金)
問合せ：市民協働企画総務課 (086-803-1061)

★ご相談　随時受付中

・課題解決に向けたワークショップの提案
・市民協働推進ニーズ調査事業への提案
・市民協働推進モデル事業への提案
・区づくり推進事業「地域活動部門」の提案
・その他、課題解決や協働にかかわる提案など

最新情報は「つながる協働ひろば」で検索！

発行・問合せ：ESD・市民協働推進センター
岡山市北区大供一丁目1番1号　岡山市役所2階　市民協働企画総務課内
TEL　：　086-803-1062　/　070-5055-7589
E-mail　：　esd-smc@googlegroups.com